ヨハネ 14 章 15－31 節

「もうひとりの助け主」

なんとなく「聖霊」をイメージはできても、聖霊を説明するのは難しいでしょう。今日の箇所はその聖霊の神を、詳しく教えてくださっています。16 節によれば、神さまがイエスとは「別の弁護者」を遣わして、その弁護者は弟子たちと永遠に一緒にいるようになると言われています。17 節によれば、それは「真理の霊」です。この別の弁護者・真理の霊が、聖霊の神のことです。「弁護者」と訳されている言葉はギリシャ語の「パラクレートス」という名詞です。聖霊は、正義の神への弁明を罪人たる私たちの内側から教える神です。誰も分かってくれなくても、世間からはじかれても、聖霊である神だけは信者をかばってくれる、それが弁護者という訳の意味です。そしてパラクレートスには、もう少し一般的な意味があります。それは「助け手」という意味です。ギリシャ語のパラクレートスは、ヘブライ語のエゼル（助け主／助け手）の翻訳であり解釈であるという理解に立っています。困っている人を助け救い出す神はエゼルであり、結婚相手という最大の協力者がエゼルです。このエゼルに「呼びかけられる者」という意味を与えて、著者ヨハネはパラクレートスという単語を用いたのです。もうひとりの助け主として、聖霊が私たちの内にいるというのです。神さまは、人間に助け主として呼びかけられることを望んでおられます。「神さま、助けてください」と呼ばれたら喜んで救い出してくださいます。聖霊とは、私たちの心を導き、共感や寛容を与えてくれます。私たちの内に、イエスさまの霊・神の霊がおり、聖霊において神と一体化しているからです。

この時、イスカリオテでないユダがイエスに、「主よ。わたしたちにはご自分を現そうとなさるのに、世にはそうなさらないのはなぜでしょうか。」（22 節）と尋ねました。イエスさまはそれに正面から答える代わりに、「わたしを愛する人は・・」（23 節）と掟のことばを繰り返します。イエスさまが彼らの目の前から見えなくなっても、「助け主」が、イエスさまの御名によって、父なる神ご自身から直接に遣わされます。そして、「聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる」（26 節）と言われます。そしてイエスさまは最後に、「立ちなさい。さあ、ここから出かけよう」（31 節）と言われましたが、この後自分が権力者に捕らえられることを指します。私たちもこの世との戦いに派遣されます。しかし、恐れることはありません。イエスさまと同じ「もうひとりの助け主」の聖霊がともにいてくださるからです。私たちが今ここで、ともに礼拝を守っているのは、聖霊が私たちを教え、イエスさまのことばを思い起こさせて下さった結果です。聖霊、もう一人の助け主が私たちのそばにいてくださる。共にいてくださる。わたしたちはひとりぼっちではない。また、聖霊を吸い込み、内に宿し、良心に従って共感と寛容を身につけることです。互いに仕え合い、キリストの体となることです。この世と対立しても、ここに価値があると信じて生きることです。神とつながり人とつながり合いたいと願います。